

通常総会・講演大会記事

4月5日第61回通常総会、名誉会員推挙式、表彰式、特別講演会が開催された。以下にその詳細について報告する。

第61回通常総会 第61回通常総会は4月5日午後1時より東京大学工学部2号館大講義室において開催された。田畑専務理事司会のもと冒頭に作井会長の挨拶が行なわれた。「私が会長に選ばれ2年を経過した。この間は昭和48年の石油危機を契機とし、総需要抑制策による景気の後退、GNPマイナス成長、減速経済への移行と、かつて体験し得なかつた厳しい時であった。鉄鋼業においても各種原燃料の価格高騰、特に原料炭の入手難に見舞われ、コストは急上昇し、生産面にさまざまな制約を及ぼした。また国内需要の不振、輸出の環境の悪化から粗鋼も大幅な減産を余儀なくされた。しかしながら鉄鋼技術においてはこの厳しい環境下においても着実な歩みを見せている。わが国の鉄鋼技術は高い水準にあり、近年では鋼材中心の輸出から、技術指導、プラント類の輸出に内容を転換しそうな勢である。鉄鋼技術の開発には環境変化に迅速に対応させるために各分野の技術開発が基本となり、これに関連する広範な基礎研究、応用研究に支えられ、研鑽を積み重ねて開花されるものである。さらに従来の情報交換、共同研究に加えてプロセス技術を主体とする大型な開発研究を進めるなど新しい発想によつて革新的な解決を計ることが必要である。今日鉄鋼業にとつて省資源、省エネルギー、環境汚染、産業廃棄物処理および再資源化など重要な諸対策の研究課題が横たわつており、本会は次の十周年への跳躍の第一年度として我々の研究課題を一つ一つ取り除き国際競争力のある鉄鋼業を発展させて行くことこそ会員諸兄に課せられた努めであると考え、私は本会創立50周年には副会長、昨年迎えた60周年には会長という幸運に恵まれ、この総会を機に二年間の任期を終り会長の職を退くが、この間大過なく職責を全とうできたのも一重に諸先輩、役員、会員の皆様のご支援とご協力によるものである。新会長のもと今後本会が益々発展することを祈る。」

以上、挨拶の後、作井会長が議長となり議事に入った。付議された案件は次の3件で、

1. 昭和50年度事業報告、収支決算ならびに財産目録の件
2. 昭和51年度事業計画ならびに収支予算の件
3. 理事、監事ならびに評議員選挙の件

議事進行上、初めに議案第3号理事、監事、評議員の選挙が行なわれた。選挙管理委員に郡司好喜君、山岸秀久君を選び、別室において開票に入った。続いて議案第1号ならびに議案第2号は関連しているので一括議案として事業と会計に分けた。

昭和50年度事業計画ならびに昭和51年度事業計画については、石原重利理事から次のような説明がなされた。

「日本鉄鋼協会は、昨年、60周年を迎え、60周年記

念式典を盛大に挙行し、記念事業として、玉鋼を原料として、数少ない技術伝承者による鋸の製作工程を記録した映画「日本の鋸」を製作し、「鉄鋼技術の進歩」をテーマに「鉄と鋼」記念特集号を刊行しました。

昨年、10年間を振り返つてから1年経過しました。環境問題、エネルギー問題等、科学・技術の発展の条件に要因が加味された中で、大学と業界の間にあつて、鉄鋼協会の果たすべき役割は益々多岐に亘つて参りました。

ここに、昭和50年度事業を報告し、昭和51年度事業計画について御説明申し上げます。

最近、景気昂揚の兆しが見え始めましたが、昨年1年間も厳しい景気停滞の中でも、鉄鋼に関する科学・技術は発展を続けております。

日本鉄鋼協会は研究開発や技術開発の一層の促進を企するため、欧米研究所視察団の派遣や、基礎研究部門の共同研究体制の検討、継続教育の一環として、鉄鋼工学セミナーの実施、鉄鋼技術情報流通の円滑化を検討する専門委員会の設置等、数々の計画をたて成果をあげておりますが、その2、3成果から先に申し上げたいと思います。

欧米研究所視察団は、大学教授および鉄鋼各社の研究所長から編成され、3週間の日程で、イギリス、フランス、西ドイツ、ベルギー、アメリカ5カ国の大学、企業および国公立の研究所、学協会を訪問し、各国の共同研究、教育、研究管理、大学・企業・学協会がそれぞれ果している役割り、について実態を調査し、現在、問題提起を盛つた報告書を作成中であります。

国際関係につきましても、その他、ソ連邦モスクワのバイコフ記念冶金研究所で開催されました、第5回日ソ製鋼物理化学シンポジウムに、10名の学術使節団を派遣し、また、チェコスロバキヤに5名の使節団を派遣しました。先週開催されました第2回日独セミナーも、実行委員会を設け万全の準備を行いました。

これら国際交流は、科学・技術情報の交流、親善に有意義でありました。51年度も、可能な限り、国際シンポジウムの開催、また使節団の派遣を行う予定にしております。

基礎研究部門の共同研究は、(社)日本金属学会、学術振興会と共に、後述のように共同研究を推進しておりますが、研究委員会において、鉄鋼関係業界や当協会の共同研究会が解決を要望する「長期的、基礎的な研究」や鉄鋼協会内での継続的、組織的な基礎研究の共同・協力体制や、大学・国公立研究所の有効利用、などの趣旨にもとづいて、重要な基礎研究テーマとその共同研究体制の問題点について検討を重ねています。

前述の、三者による基礎共同研究会も着実な歩みを見せ、50年度に、固体質量部会、再結晶部会が5年間に亘る研究活動を成功裡に終了し、遅れ破壊部会が最終まともに入っておりますが、凝固部会、特殊精錬部会、微量元素の偏析部会、応力腐食割れ部会が50年度に引き続き活発な研究活動を行ないます。

教育問題につきましても、鉄鋼協会の生涯教育に関す

る事業として、鉄鋼工学セミナーが計画・実施されました。これは、大学卒業後、7～12年位の鉄鋼企業の中堅技術者を対象にして、鉄鋼製造の基礎理論と現場的諸問題を結びつけて説明することを目的とし、講師、スタッフと受講生が30名の少人数で、2泊3日の生活を共にしながら勉強し、懇親も深めて成功裡に終わりました。本年も引き続き計画し、永続事業の一つとして基礎を固めることになりましょう。

情報管理部門の事業としては、情報管理の為の用語管理用辞書「金属工学シンソーラス」を金属関係9学協会および(特)日本科学技術情報センターの協力を得て、作成し刊行いたしました。51年度は、金属工学シンソーラスにもとづく、文献の検索実験をコンピューターを用いて行い、更に、それを整備していく予定であります。

また、資料委員会においては、文献のコンピューター処理に備え、「鉄と鋼」掲載論文にキーワードを添付すべく検討を重ねております。

原子力関係では、原子力製鉄技術研究組合の大型プロジェクトが本年度で4年目を迎え、活発な研究が行なわれており、慶賀に堪えません。鉄鋼協会は大型プロジェクトの対象外の研究分野について、共同研究会原子力部会において、研究調査を継続しております。

ここで、共同研究会について触れたいと思います。共同研究会は、昨年運輸部会が誕生し、17部会23分科会の構成で、鉄鋼製造技術の全般に関し、現場的立場から調査研究、情報の交流を行なっております。また、現在最も問題視されている公害、環境保全、省力化、合理化、省エネルギー化などについても、各部会、分科会の角度から検討が重ねられています。

現在、日本の鉄鋼業は世界の鉄鋼製造技術をトップレベルに押し上げプラント建設技術の世界的指導者となりましたが、共同研究会の寄与は大なるものと存じます。

次に、昨年の鉄鋼協会の基本事業を顧みますと、「鉄と鋼」は60周年記念特集号を含めて、15号を発行し順調に推移しております。Transaction of the Iron and Steel Institute of Japan は昭和50年度より月刊誌となり、名実共に国際的な学術誌として評価が高まっております。その他図書編集、刊行、表彰事業、も広範にわたる活発な事業を展開しております。講演大会も、業界・学界の研究活動を反映し、787件の講演があり、盛会裡に終っており、西山記念技術講座も、東京、大阪、福山で開催されました。

次に標準化委員会においては、鉄および鋼に関するJISの見直し検討、原案の作成、データシートの収集、ISOの国際規格の審議およびコメントの作成、ISO国際会議への参加などを通じて、国際的発言権を増大いたしております。昭和51年度にはISO、TC17関係の国際会議が東京で開催されることになり、受入準備が着々と進行しております。

その他、クリープ委員会、試験高炉委員会、材料研究委員会、製鉄技術調査委員会等が夫々活発な活動を行なっております。

尚、国際交流につきましては、国際鉄鋼技術委員会が国際鉄鋼協会の技術問題に対する国内委員会として活動

を展開いたしており、また、東南アジア鉄鋼協会には、シンポジウムへの参加、並びに論文の提供など活発に中心的役割を果たしています。また、国交正常化の成立した中国との技術交流を促進すべく、使節団の派遣を計画いたしております。

終りに、日本の経済が深刻な打撃を蒙りながらも、新たな経済成長の時代に入ろうとしています。

エネルギー・資源問題、環境問題を抱えて、経済成長を支える技術には、総合的な技術が要求されることは明らかでございます。

このような時に当り、鉄鋼科学技術の役割はますます増大しており、鉄鋼協会の果すべき使命の重要性を痛感しております。そして、将来の社会、経済の要請に応え得る適確なプロジェクトを推進し、量から質への転換をはかる必要があると存じます。

先置各位、会員諸賢の御指導・御協力をお願い致します次第でございます。」

引続き木寺淳理事より昭和50年度収支決算ならびに昭和51年度収支予算について報告がなされた。

昭和50年度収支決算は、収入は454,913,598円で予算に対し2,949,683の増加となつた。一般経済界の不況により広告収入の大幅な減収はあつたが、会費収入の370万円の増収のほか、会誌、刊行物ならびに鉄鋼標準試料等の増収によるものである。支出の部では決算432,466,983円で予算に対し19,496,932円の節減となつた。これは人件費の上昇が小幅におさまつたこと、郵便料金改訂の時期が遅れたこと、その他極力諸経費の節約に努めた結果である。差引22,446,615円の剰余金を得たので次年度に繰越したい。つづいて昭和51年度予算は昨年来の経済状況から会費収入は昨年度なみに押えることとし、前期繰越金を含め462,831,615円を計上した。支出予算については支出増を極力最少限に押え、継続事業、継続調査研究の内容充実に重点をおいた。予算規模を前年度並に押えることを前提として、調査研究費においては技術情報検索実験、生産設備能力調査の2つの新項目を、事業費では日本・チェッコシンポジウム、日独シンポジウム、日中技術交流、ISO国際会議等4つの新事業を織り込み、予備を除き前年度より3%増の44,650万円となつた。本年度も諸費節約に留意したいと考えている。会員各位の一層の協力を賜りたい。と説明がなされた。事業会計報告の後、青山芳正監事より「昭和50年度の事業報告ならびに収支決算・財産目録につきまして監事において慎重に審査いたしました。事業はいずれも適正に執行され、また会計は正確であり、財産も良好に保存せられてあることを認める。また昭和51年度の事業計画ならびに収支予算についてもいずれも適正なものとする。との監査報告がなされ、満場一致をもつて議案第1号、第2号を承認された。

続いて、先に行なわれた理事、監事、評議員の選挙の開票結果がまとまり、理事15名、監事1名、評議員127名の各候補者全員が当選した旨郡司、山岸、両選挙管理委員より報告があつた。ここで総会は休憩に入り、別室で臨時理事会が開かれ会長ならびに常務理事の互選が行なわれた。総会が再会され議長より互選の結果、会長に小林佐三郎理事が、常務理事に吉田道一理事が当選され

た旨報告があり、小林新会長の就任挨拶があり、第61回通常総会を終了した。

名誉会員推挙式 総会に引続き名誉会員推挙式が行なわれた。新名誉会員は次の通りである。(推挙理由口絵参照)

伊木常世君 トピー工業(株)常任顧問
ヘルムート・ケーゲル君 ドイツ鉄鋼協会専務理事

表彰式 名誉会員推挙式につづいて表彰式が行なわれ下記の通り各賞が授与された。(表彰理由参照)

渡辺義介賞	山下 伸六				
西山賞	不破 祐				
服部賞	岡部 英雄	大柿 諒			
香村賞	河西 健一	三井 太佑			
渡辺三郎賞	高梨 省吾	田中 実			
俵論文賞	桑原 守	鞭 巖	古川 武		
	加藤 栄一	高橋 忠義	市川 洌		
	工藤 昌行	島原 皓一	福田 宣雄		
	清水 峯男	渡辺 力蔵	千葉 芳孝		
	九重 常男				
渡辺義介記念賞					
	石橋 義行	一丸隆六郎	神田 良雄		
	後閑 敬也	孝橋 要二	古茂田敬一		
	佐々木 隆	佐伯 修	志水 敏詮		
	長井 保	舟知 明	松本 嘉猷		
	宮崎 義利	村木潤次郎	山田 浩蔵		
西山記念賞	足立 敏夫	伊藤 悌二	板岡 隆		
	上田 益造	大橋 延夫	加藤 正一		
	木村 康夫	合田 進	佐野 信雄		
	添野 浩	田口 一男	武井 英雄		
	長谷部茂雄	森 勉	渡辺 敏		

特別講演会 表彰式につづいて次の通り特別講演が開催された。

- Structural Changes in the German Steel Industry
ドイツ鉄鋼協会専務理事
Dipl.-Ing. Helmut KEGEL 君
- わが国鉄鋼業の進歩発展と今後の課題
渡辺義介賞受賞
日本鋼管(株)副社長 山下 伸六君
- 溶融スラグの水蒸気吸収に関する研究
西山賞受賞
東北大学教授 不破 祐君

第91回講演大会

昭和51年度第91回講演大会は4月4日、5日、6日東京都文京区本郷7-3-1東京大学工学部で開催された。この大会では講演会、討論会、委員会報告講演会、ジュニアパーティーが開催された。

講演会・討論会 4月4日、5日、6日の3日間にわたり、376件の講演が専門別10会場に分かれて行なわれた。376の講演件数は春季講演大会では過去最高の講演件数であった。専門別講演件数では製鉄関係68件、製鋼関係92件、加工関係38件、性質関係178件であった。講演内容としては製鉄では解体高炉の調査、還元ペレットに関するもの、製鋼では連続鑄造に関する研究、加工では連続焼鈍、表面処理関係、性質ではステンレス鋼に関する研究が多くみられた。

また討論会は次の5テーマが行なわれた。

- 焼結鉱とペレットの比較 座長 中村 直人
- 製鋼における脱磷と低磷鋼の製造 座長 松下 幸雄
- 大型鋼塊の凝固と品質 座長 鈴木 幸
- 圧延材の冷却 座長 加藤 健三
- ステンレス鋼の腐食試験法 座長 久松 敬弘

委員会報告講演 本会金属工学シソーラス作成委員会では昨年金属工学シソーラスが作成されたのを機会に次のテーマにより報告講演が4月4日14:30~15:30第9会場において行なわれた。

「金属工学シソーラス作成経過、情報管理と金属工学シソーラス等について」

金属工学シソーラス幹事会主査

新日本製鉄(株)技術開発部 山村 良彦君

懇親会 4月5日午後6時より文京区の茗溪会館において、日本金属学会と合同で開催された。参加者は230名の多数にのぼり、東京大学工学部教授松下幸雄氏の司会のもと、本会作井前会長、小林新会長、日本金属学会藤本前会長、藤木新会長の挨拶があり、乾杯の音頭で始められた。各地から参集した会員諸氏の間で歓談がくりひろげられた。

ジュニアパーティー 4月4日午後5時30分より、東京大学赤門そばの学生会館で開催された。参加者は140名の多数にのぼり、参加者中より梅田高照氏(東大工助教授)、中西恭二氏(川鉄技術)に司会を依頼し、安藤講演大会分科会主査の乾杯の音頭で始められた。若手技術者、研究者と中心に自由に懇談がなされ、民謡などもまじえて互に親交が深められた。